

「ネットショップ実務士」の認定開始

EC業界で求められる能力の評価・認定活動を進める「ネットショップ能力認定機構」が活動を本格化させる。検定試験やトレーニングを通じて必要な知識やスキルを身に付けさせ、「ネットショップ実務士」として認定。即戦力となる人材の育成を目指す。

EC業界の人材不足は深刻だ。「現在は中間マネジメント層が特に不足しているが、人



ネットショップ能力認定機構

理事・事務局長 杉浦 治氏

材のすそ野を広げ、将来を見据えた育成を進める必要がある」と、同機構の理事・事務局長の杉浦治氏。認定制度の趣旨に賛同する企業は多く、Eストアー、エイチ・アイ・エス、ディー・エヌ・エー、ヤフーナド30社と、日本電子商取引事業振興財団など2団体が協力の活動に助言・提言を行う実施委員として参加している。

求められる力を職種ごとに設定 即戦力となる人材の育成を目指す

ネットショップ実務士は、オペレーション、ウェブ制作、プロモーション、マネジメンの4職種と、4段階の能力レベルの組み合わせで全11種類のクラスを設定。実務経験の有無や同機構が実施する「ネットショップ検定」での合格など、クラスごとに指定された認定要件をクリアすることで資格を取得できる。認定要件の作成に当たっては、実施委員である企業などに人材の評価基準をヒアリング。必要な知識、スキル、経験などのデータを収集した。

また、検定試験対策用のテキストも発行。ネットショップの種類や特徴、開店から運営までの流れ、スタッフの働き方、求められるスキルなどを解説し、受検希望者だけでなく現職のネットショップ運営者などにも役立つ内容とした。

「12年度までに受検者2万人を目指したい。内定者教育や社員教育などにも検定を活用していきたい」と杉浦氏。今年度は残り2回（12月5日、11年2月27日）の試験を予定しており、来年度以降は年5回程度実施する計画だ。

実務士育成の具体的なプロセスは、大学や専門学校など教育機関との連携を構想。カリキュラムの提案を行い、専用コースを設けて訓練する。

「インターシップ（就業体験）も実施したい。授業で基礎知識を学び、練習を重ねて、実践的な訓練を受ける。即戦力となる人材がそろえば企業も採用しやすい」と杉浦氏。EC業界への就職を志望する若者と、優秀な人材を求める企業のマッチングを進めたい考えた。